

富士根北地区

末代上人と大棟梁神社

村山修験の祖ともいわれる末代上人^{まつだいにしやうにん}は、富士山頂への大日寺、村山への富士山興法寺(現在の村山浅間神社^{だいにしやうけんげん})の建立に深く関わった人物で、自身も大棟梁権現という山の神様となって興法寺に祀られました。

江戸時代、大棟梁権現は栗倉にある大棟梁神社に分霊^{むなふだ}※1され、この神社でも祀られるようになりました。

大棟梁神社の棟札^{むなふだ}※2には、寛政11(1799)年に興法寺の修験者が大棟梁権現を分霊したことや、大棟梁権現の本来の姿が十一面の顔を持つ仏様「観世音菩薩^{くわんぜおんぼつ}」であることなどが書かれており、社殿には観世音菩薩坐像^{くわんぜおんぼつざざう}が残されています。

※1 ある神社の神の霊を分けて別の神社にも祀ること

※2 建物の建築や修繕の際に、工事年月日や建てた経緯、祈りなどを記した札



大棟梁神社



棟札

歩く博物館Dコース<富士根北地区>道者道を歩くコース

市役所6階文化課、出張所または市公式ウェブサイトなどにあります。



ID 1769



廃仏毀釈と補修された観世音菩薩坐像

明治時代初期、政府の神仏分離政策※3に伴い、多くの寺や仏像が破壊されるなど、全国的に過激な廃仏毀釈^{はいぶつきしやく}が起こりました。

一方で、仏像に烏帽子^{えぼし}や直垂^{ひたれ}をつけて神像のように見せ、廃仏毀釈から逃れたとされる観世音菩薩坐像が残されている地域もあります。

大棟梁神社の「観世音菩薩坐像」には、別の像のものと思われる、厚く彩色された烏帽子が被せられ、両手に如意棒^{にょいぼう}を持っています。

この像も、頭にあった十面の顔が取り除かれ、神像として改変をすることで廃仏毀釈を免れたのかもしれない。

※3 明治政府が神道国教化の推進のため、神社の仏教的色彩を排除しようとした宗教政策



観世音菩薩坐像



歩く博物館ガイドブック

全24コースの地図と解説付きです。

料 500円

申 市役所6階文化課、埋蔵文化財センターの窓口で

他 郵送で購入したい場合は、電話またはメールでお問い合わせください。

問 文化課 ☎22-1187

✉ e-bunka@city.fujinomiya.lg.jp

有料
ガイドブック



問 文化課 ☎22-1187